

表彰された皆さん、おめでとうございます。

学年末まで称賛式で表彰状を手渡すことができることは、皆さんそれぞれが大会やコンクールに積極的に参加した成果です。今回の表彰をいい刺激として、次の大会や作品づくりに向けて、さらに高いレベルの目標を設定して、気持ちも新たに頑張ってもらいたいと思います。

また、読書の多読賞は、年間を通じて読書に励んだ皆さんを称える賞です。表彰された皆さんは、読書を通じて、心を豊かにすることができ、表彰以上の財産を得たことと思います。全校生徒の皆さんも、改めて本への向き合い方を自らの意志で変えてみましょう。そして、いい本との出会いは、心をより豊かにし、知識を深め自分の考えを幅広くできることにつながります。本を読む時間を少しでも見つけてください。

この後の終業式で表彰されることになっていますが、称賛すべき活動をしている本校生徒を紹介します。先日15日の愛媛新聞に、女子サッカーのプレナスなでしこリーグ1部に参戦する愛媛FCレディースの記事が出ていました。国内の女子サッカーは、昨年プロリーグができたので、なでしこリーグ1部は、日本女子サッカーのアマチュア最高峰リーグに位置づけられます。

このリーグに2年生の藤澤和心（なごみ）さんが最前列に映っていました。ジュニアや高校世代の大会ではなくて、社会人・企業が主体のリーグですので、皆さんが考えている以上に高いレベルのステージで戦うことになります。藤澤さんは、昨シーズンから、既にスタメンで活躍していました。周りの仲間の皆さんはこれまでの活躍を知っていたことと思いますが、プロ化されて今シーズンはまだ2年目です。プロリーグとはいっても、参入している一部のチームは、なでしこリーグ1部を勝ち上がった実績はなく、いきなりプロチームの審査を受けて戦っているチームもあります。

藤澤さんが戦っているリーグのレベルは、プロ化はしていないアマチュアリーグではありますが、私たちが想像する以上のレベルだと思ってください。

藤澤さんだけではなく、卒業生の昨年インターハイで2位入賞の世良柚実乃さんや北京冬季五輪で旗手を務めた郷壺里砂さんのコーチを受け、全国のトップレベルで活躍しているスピードスケートショートトラックの越智大翔さんや、他にも、文化部では郷土研究部の「小町伝承」の謎解きに挑んで最優秀賞を受賞した研究実績を収めるなど、皆さんの隣の仲間が、同じ学校生活をしながら、高いレベルで活躍できることに対して、皆さんは心からの称賛や激励のエールを送りながら、お互いをリスペクトするとともに、この松山北高校という恵まれた仲間、空間、ともに過ごす時間の環境から成し遂げられていることに、もっと自信や誇りを持ちましょう。表彰の形はないですが、松山北高校の皆さんと皆さんを支えてくれている担任はじめ多くの先生方全員が称賛される対象だとも思っています。この環境を皆さんで大切にもっといいものにしていきましょう。

新年度、松山北高校生が、様々な分野でもっともっと活躍し、時間内では表彰しきれないくらい称賛されることを楽しみにしたいと思います。皆さんのさらなる飛躍に期待します。